

2026年度トヨタ財団助成プログラム

# オンライン合同説明会開催

[開催日時] ※要事前申し込み

第1回：4月8日(水) 16:00～17:30 / 第2回：4月13日(月) 12:00～13:30

## 国内助成 プログラム

[テーマ]

新常態における新たな着想に  
基づく自治型社会の推進

## 研究助成 プログラム

[テーマ]

つながりがデザインする  
未来の社会システム

## 国際助成 プログラム

[テーマ]

アジアの共通課題と相互交流  
ー学びあいから共感へー

配布資料

# 1. 国内助成プログラムについて

# 国内助成プログラムの変遷（2004～地域社会に焦点化）

年度	(公募) テーマ	
2004～2007	地域社会の再構築を目指して 一 支え合う暮らしといのち	地域社会 プログラム ↓
2008～2010	地域に根ざした仕組みづくり 一 自立と共生の新たな地域社会をめざして	
2011	継ぐ、つくる、つながる 一 共に拓く地域の未来	
2012	人がつながり、地域が動く 一 共に拓く地域の未来	国内助成 プログラム ↓
2013	人がつながり、地域が動く 一 共に拓く私たちの未来	
2014	未来の担い手と創造する新しいコミュニティ 一 地域に開かれた仕事づくりを通じて一	
2015～2018	未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ 一 地域に開かれた仕事づくりを通じて一	
2019～2020	未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ 一 地域に開かれた活力ある課題解決の仕組みを通じて一	
2021～	新常態における新たな着想に基づく自治型社会の推進	

キーコンセプト：少子高齢化、人口減少、地域／社会の持続可能性、担い手など



公益財団法人トヨタ財団

2021年度国内助成プログラム 募集要項

新常態における新たな着想に基づく  
自治型社会の推進



募集期間 2021年4月21日[水] - 6月11日[金] 15:00

「自治」や「自治型社会」が  
テーマ

“自治”  
といっても  
警察や行政、  
自治会の活動  
などへの助成  
ではないワン



©いらすとや

# 「自治型社会」や「自治」の定義など

- 「自治型社会」とは・・・  
“地域社会の課題を、自治体・NPOと協働しながら住民コミュニティ自身が主体的に問題解決にあたる社会” (Wikipediaなど参照)

- 「自治」とは・・・  
“1 自分や自分たちに関することを自らの責任において処理すること” (デジタル大辞泉より引用)



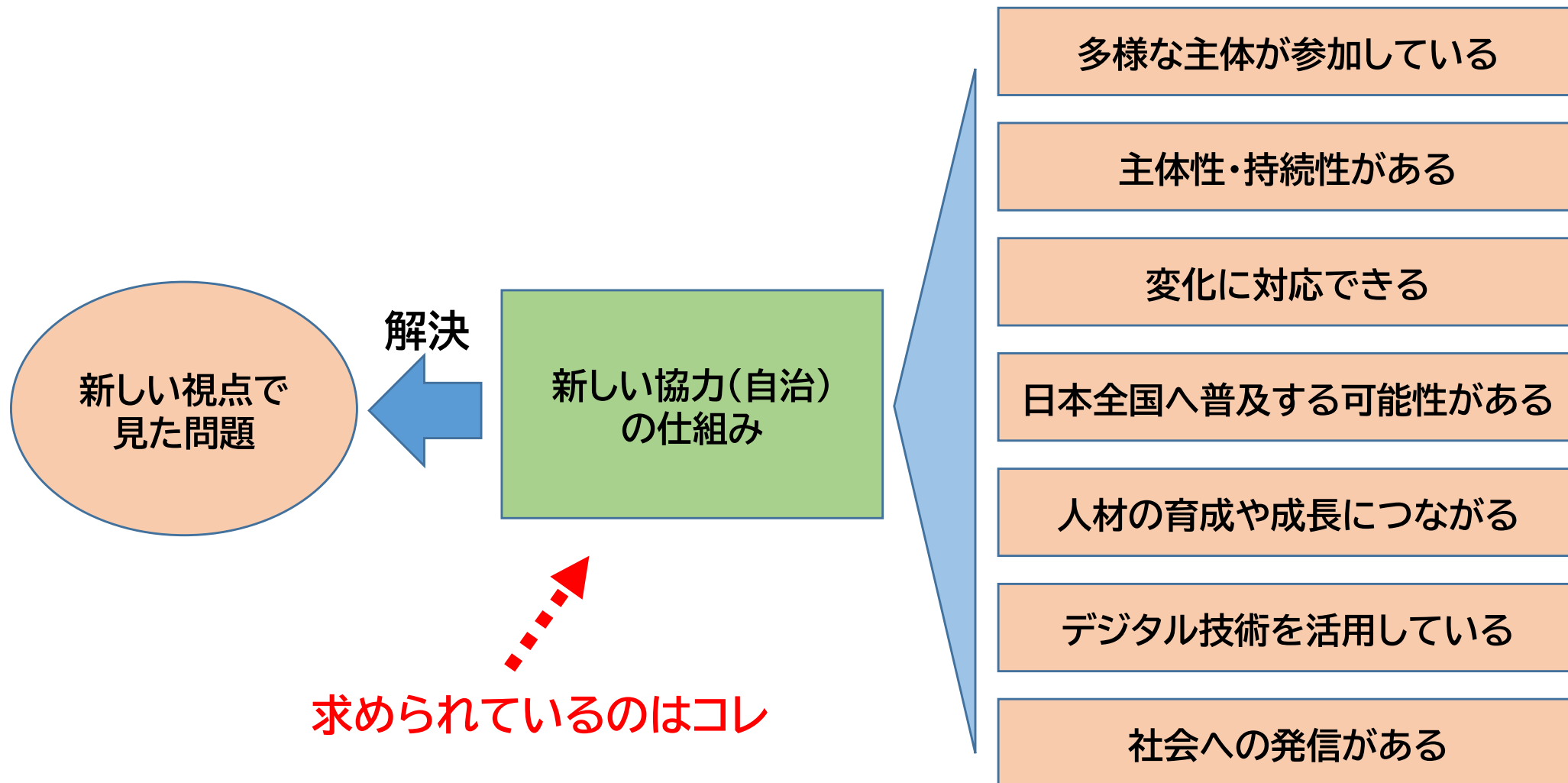
当事者性？  
主体性？  
自己決定？  
自己実現？

“For All”  
⇒ “By All”  
皆で問題が  
「起こらない」  
社会／地域を  
つくろう！



©いらすとや

# 求められるプロジェクト像



(2021年度以前から国内助成プログラムで重視してきた点)  
多様なステークホルダーと共に取り組む持続可能な地域社会づくり



(現行テーマの趣旨、着眼)

新常態における	(新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が発生した後の世界／社会を前提としつつも、それだけに限らず) どのような事態や事象に直面しても、その時々「社会変化に伴う新たな常識や状態」に対応できる能力や仕組みなど
新たな着想に基づく	① <u>課題解決の視点だけに依らず、より良い社会／地域に向けて</u> ② 既存の仕組みや従来からの手法などを疑う・問う視座
自治型社会の推進	「 <u>“市民・住民一人ひとりが”</u> 、暮らしや社会を支える自律的な担い手となっていくために、特定の誰かによって開発・提供されるサービスを利用・受益するだけの関係性や構造に留まるのではなく、 <u>多様な主体との協力を通じて乗り越えていく力と術を身に付けていく</u> 」ことを重視

# 国内助成プログラムの枠組み

	1) 日本における自治型社会の一層の推進に寄与するシステムの創出と人材の育成	2) 地域における自治を推進するための基盤づくり
助成期間	3年間 (2026.11.1~2029.10.31)	2年間 (2026.11.1~2028.10.31)
助成金額	上限1,500万円/件	上限600万円/件
助成総額	約4,500万円 ※助成件数は3件程度を予定	約4,500万円 ※助成件数は8件程度を予定
助成対象費目	<p>人件費や事務局経費を含むプロジェクト実施に必要な経費</p> <p>※「1) 日本」の枠組みで、デジタル技術を活用したシステム間連経費は上限500万円</p> <p>※運営の中心を担う団体の管理費も対象とします (応募金額に対して上限10%)</p>	
留意点/備考	<p><b>【要件】</b></p> <p>詳細の情報を確認した上で、応募企画の概要をまとめた資料を用いた<b>個別の事前相談</b>を行うこと</p>	<p><b>【要望、推奨】</b></p> <p>説明会や事前相談も活用し、<b>プロジェクト関係者間で趣旨や要件などを踏まえた企画検討を十分</b>に行うこと</p>

## 1) 日本における自治型社会の一層の推進に寄与するシステムの創出と人材の育成

将来に向けて自治型社会を推進していくための諸環境を創り出していくと共に、その実践を通じて担い手が育っていくことを構想したプロジェクト

- ◆ 特定地域での自治の基盤づくりの成果を基にした知見の一般化
- ◆ 各地域の自治の力を高めることにつながる共通項の探求
- ◆ 分野や価値観などの違いを超えて多様な関係者が柔軟につながる仕組み（手法・手段などを含む）の検証や形式知化

などなど・・・



## 2) 地域における自治を推進するための基盤づくり

自治を推進するための「基盤づくり」に取り組むプロジェクト

- ①一人ひとりの「暮らし」を起点に
- ②地域資源や人と人の関係性を見つめ直し
- ③多様な関係者との対話や異なる価値観・立場のつなぎ合わせを積み重ねながら
- ④在りたい姿の実現に向けて地域内の主体性や参加・協力の仕組みが育っていく



©いらすとや

## 1. プロジェクトチーム

- プロジェクトの目的・目標の実現に向けて複数のセクターから必要な人材や組織が協力した「チーム」
- 既存の団体による単独の取り組みはNG

## 2. 企画や調査フェーズでの一定実績

- 対象分野／地域の実態把握、事業戦略の仮説検証などが済んでいる、出来ていること

## 3. 運営の中心を担う団体

- 組織体制や財政規模、事業実績などが確認できること
- 当該団体の法人格の有無や種類は問わない

左記1～3  
を満たす  
必要があります



# 本プログラムで期待する結果や成果

自治体やNPO等の多様なアクターと協働しながら市民・住民自身が主体的に関わり、地域社会の問題やプロジェクトで設定した課題が解決されることに加えて、環境や社会状況の新たな変化にも対応できる意識や基盤、仕組みなどが備わること

多様なアクターによる連携・協力が助成期間中に限ったものではなく、助成期間終了後も目的に応じて機能・持続・強化していく体制が構築されること



©いらすとや

既存の社会システムや制度、取り組みの課題点等を踏まえた民間の独創性や創意性、主体性が感じられる新たな仕組みや制度、手法が生まれ、プロジェクトに関わった人材の育成や成長につながること

プロジェクトを通じて明らかとなった知見を取りまとめ、社会全体や他団体／機関に対して積極的に発信・開示・共有していくこと



©いらすとや

## ◆選考方法：

- ・ **選考委員会（学識経験者およびNPO関係者で構成）**で選考を行い、トヨタ財団の理事会で最終決定
- ・ 選考過程では、



©いらすとや

- ①国内助成プログラム担当のプログラムオフィサーによるヒアリング（対面、電話や電子メールによる聞き取り調査）を実施する場合有
- ②「1）日本における自治型社会の一層の推進に寄与するシステムの創出と人材の育成」の枠組みでは、選考委員会でのプレゼンテーションによる最終選考を実施

（※上記①、②の何れも対象となった応募者宛に個別連絡）



©いらすとや

## ◆選考基準：以下3つの視点で、5つの基準を設定

⇒ 「団体要件」 + 「趣旨への合致性」 + 「応募企画の評価」

# 募集（応募～助成決定まで）スケジュール

トヨタ財団ウェブサイトから応募システムへ登録し、  
「基本情報」の登録および「企画書」の書式入手・作成・提出

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	公募開始 応募受付期間 公募説明会実施		書類審査・ヒアリング 選考委員会 選考結果通知			助成金贈呈式 (予定)	助成開始

6月3日（水）15時〆切



©いらすとや

- ・ 個別相談（オンライン）も適宜受付  
⇒ 具体の企画内容：5/27（水）まで（事務的な相談は応募〆切当日まで）
- ・ 在宅勤務を併用しているため、問い合わせは基本的に  
メール：[gp4ca@toyotafound.or.jp](mailto:gp4ca@toyotafound.or.jp) をご活用ください。  
（※電話でのお問い合わせの場合、折り返しが数日後になる可能性があります）

## 2. 研究助成プログラムについて

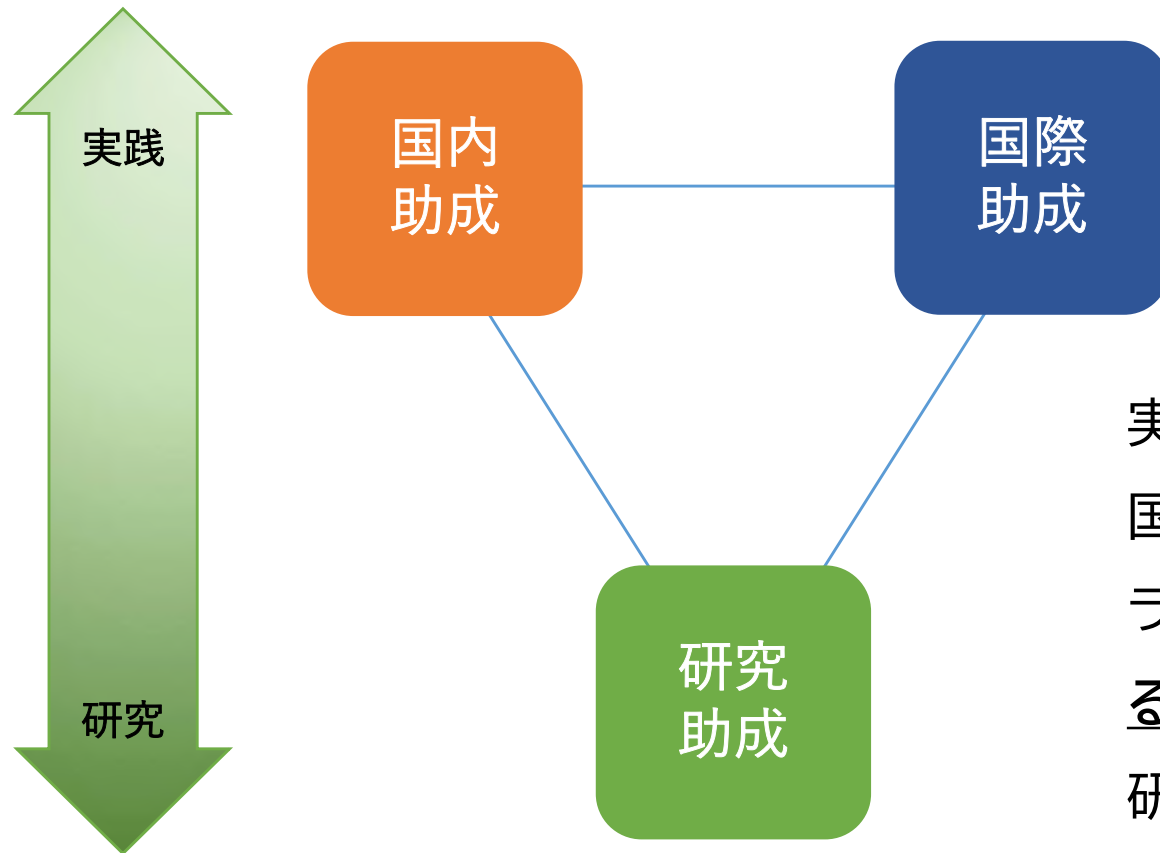
# 研究助成プログラム



## つながりがデザインする未来の社会システム Interlinkages and Innovation for Future Societies

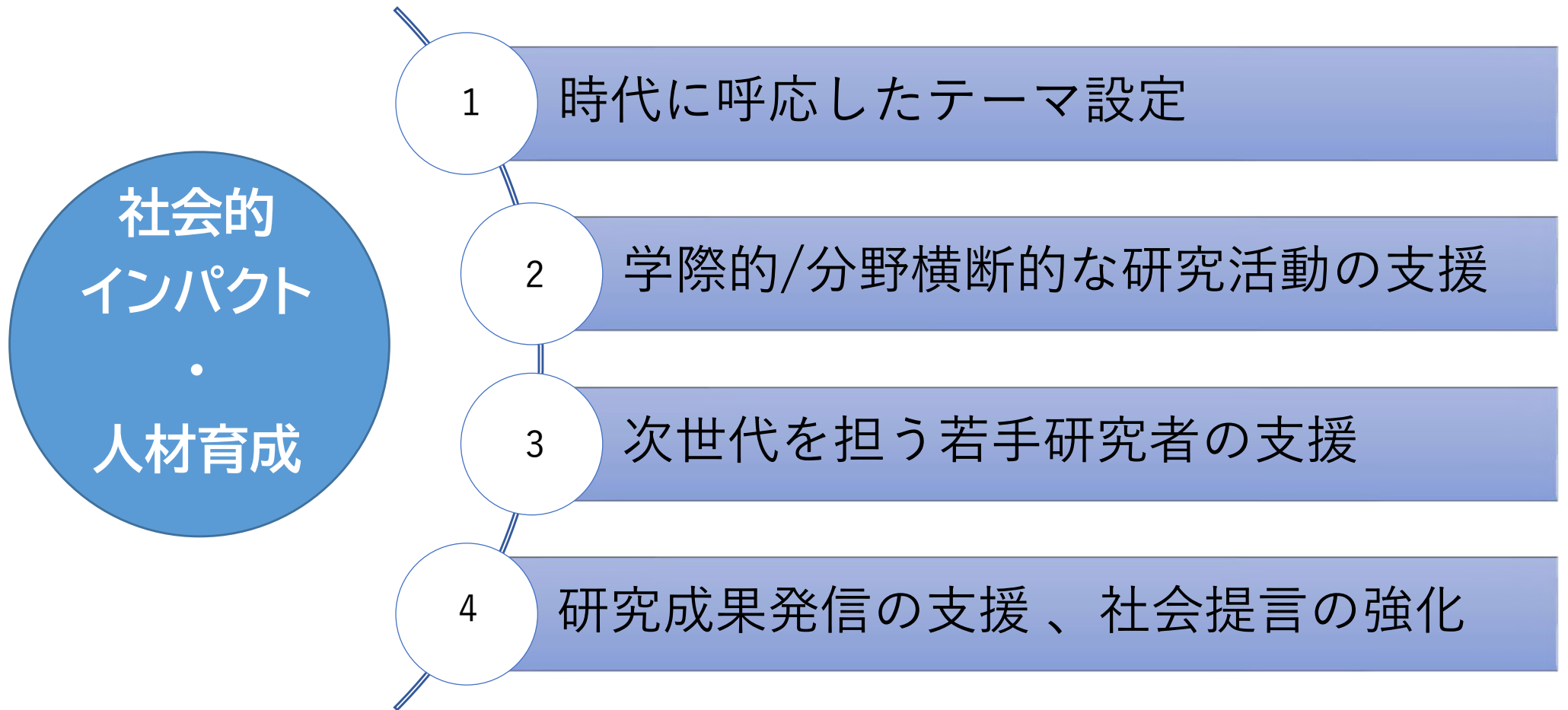
2021年度～

# 研究助成プログラムの位置づけ



実践的活動を支援する国内助成・国際助成に対し、研究助成プログラムは、それらの活動の基盤となる考え方・視点を提供するような研究活動を支援

# 研究助成プログラムの特徴





# 社会にはたらきかける研究

学際性、研究参画者の多様性、国際性、研究成果の社会へのインパクトを重視。ともすれば、学术界への貢献のみで満足しがちな従来の研究活動を超えて、社会システムの変革を促すような強い姿勢で社会課題に向き合うプロジェクトを求めています。

既存の価値に縛られない自由な発想で、大胆に世界に向けて挑戦するような研究者を本助成プログラムでは支援します。



# 求める「研究」と「研究者」のかたち

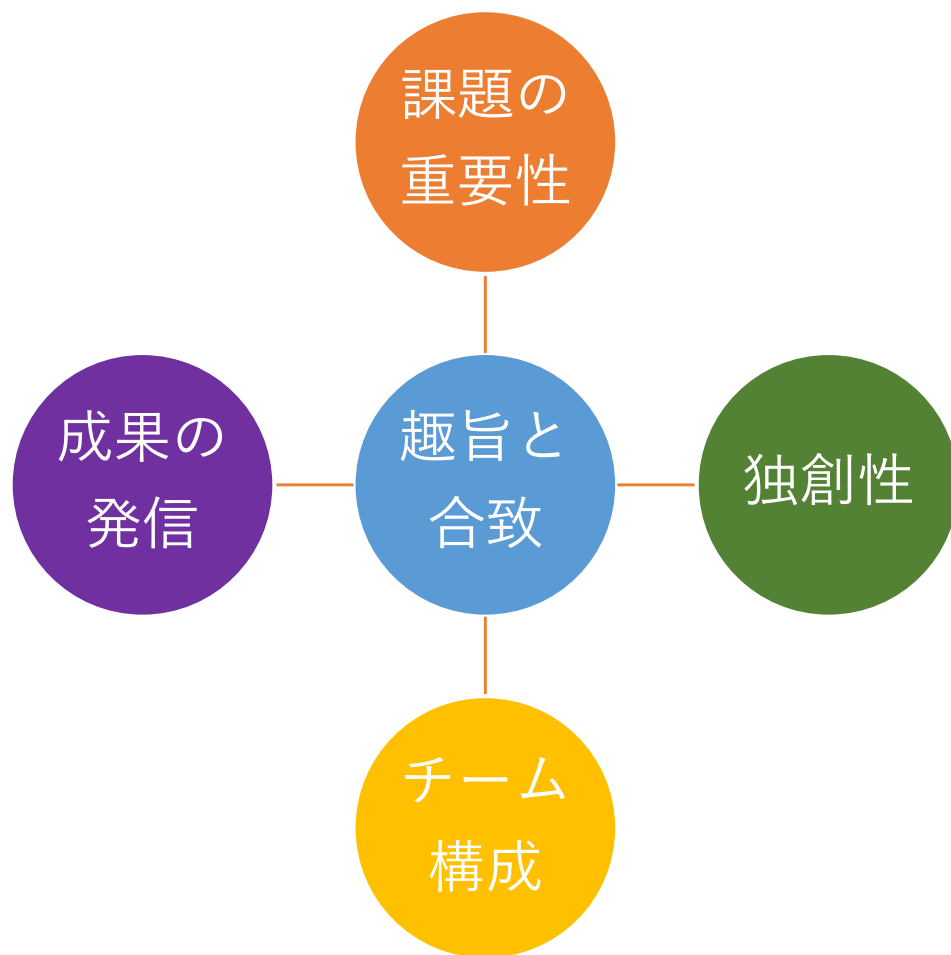
## 研究

- 実践的活動に向けた事前調査（フィージビリティ・スタディ）のみのプロジェクトは対象外。
- 実践を取り入れた研究活動を推奨。しかし、実践そのものを目的とするのではなく、その先を見据えた問題の提起や解決策の提案、現象の理論化を求めます。

## 研究者

- 大学・研究機関に所属する研究者に限らず、研究活動に取り組むさまざまな個人を、本助成プログラムでは、「研究者」と定義します。

# 選考について



- ✓ 研究課題の領域・分野は問わない
- ✓ 点数ではなく議論によって選考
- ✓ 多様なステークホルダーによる協働を推奨
- ✓ 研究成果の社会的な発信が必須

# 自主事業

助成事業に関わる調査研究、シンポジウムやワークショップの企画・運営、成果発信、助成プログラムの評価業務等



2023/2/22 みんなと考えるメンタルヘルス～アスリートという生き方を事例に～



2024/6/13-14 合同合宿@鳴子温泉  
(「つながり」から考える未来社会)



2025/10/18  
中間報告会・ワークショップ  
(社会にはたらきかける研究とは)



公益財団法人トヨタ財団  
みんなと考えるメンタルヘルス2024

ことば ことば 展

よりよく  
生きるために、  
なにができる？

 高橋 美保 東京大学大学院医学部研究科 基盤医学センター 部長	 小堀 靖子 慶応義塾大学大学院 基盤医学センター 部長	 田中ウルヴェ京 スポーツ科学部(博士) スポーツ学センター スポーツ学センター	 萩原 智子 スポーツ科学部(博士) スポーツ学センター スポーツ学センター
 高橋 優希 株式会社HRAU 代表取締役 元プロバレーボール選手	 梶田 真人 TWOARS TC代表 元プロバレーボール選手	 斎藤 ローズ 俳優、タレント	 宮谷 晋郎 クリエイティブ・ディレクター コピーライター
2024.11.6 Wed. START:14:00 CLOSE:17:00 乳びルホール(吹上ホール)コンファレンススペースA7F 後援 厚生労働省・スポーツ庁		 有森 裕子 トヨタ財団職員 基盤医学センター	 荒俣 史生 トヨタ財団職員 基盤医学センター

2024/11/6 みんなと考えるメンタルヘルス～こころとことば展～

## 3. 国際助成プログラムについて



# 国際助成プログラム

## International Grant Program

**アジアの共通課題と相互交流 – 学び合いから共感へ–**  
Cultivating Empathy Through Learning from Our Neighbors:  
Practitioners' Exchange on Common Issues in Asia



(トヨタ財団全助成プログラムに共通)

## トヨタ財団の助成の基本的な考え方

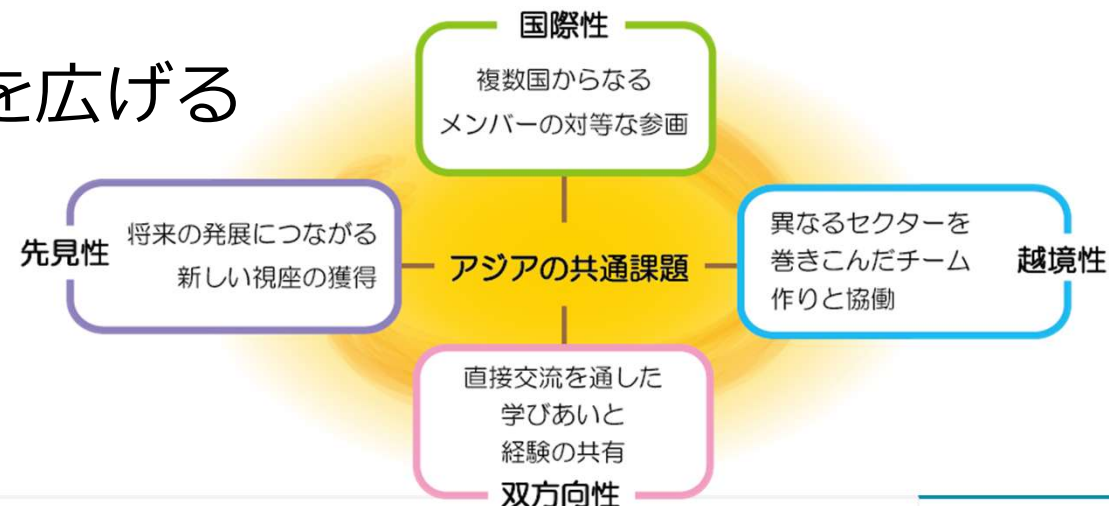
1. 社会的な意義が大きいこと
2. 内外の課題を先取りするものであること
3. 未来志向であること
4. 持続可能性、発展可能性があること
5. 波及効果が期待されること

(国際助成プログラムが目指すもの)

## アジアの共通課題と相互交流

### － 学びあいから共感へ －

アジアの共通課題の解決に取り組む人々同士が互いに交流し学びあうことを通じて新たな視点を獲得し、次世代が担う未来の可能性を広げる

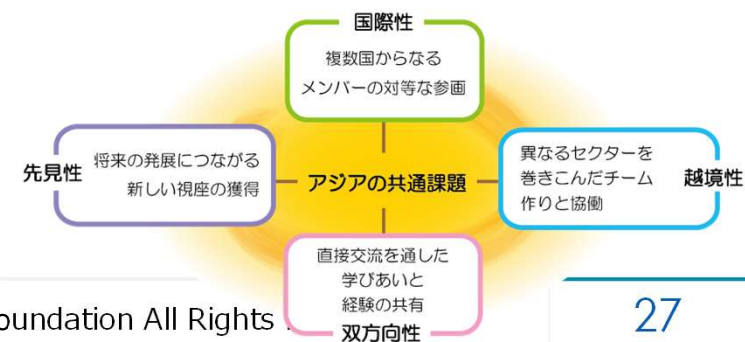


**国際性** アジア25の国/地域 2か国以上で実施

**越境性** セクター・専門性・立場等を超えたメンバーが多様な視点や経験を持ち寄って交流し、課題解決に向けて学び合う

**双方向性** 相互の対等な学びあい（相互の現場訪問必須）

**先見性** 従来の枠組みを超えた多様な関係者との積極的な学びあいを通じ、将来に向けた新しい視座の獲得を目指す



# 対象となる国・地域（25）

東アジア	日本、中国、香港、マカオ、モンゴル、韓国、台湾
東南アジア	ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム
南アジア	バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ

**二つ以上の国を対象とする**      一か国でのプロジェクトは対象外

**日本を含むことは必須ではない**      （例：タイ－カンボジア－ベトナム）

**二つ以上の対象国に加えて非対象国を含めることは可**  
（例：日本－台湾－ネパール－オーストラリア）

- **主たる居住地が日本**にある方を代表とすること
- **各プロジェクト実施国において**課題に取り組むための経験やネットワークをもつ**チームを構成**すること
- **各プロジェクト実施国を相互に訪問**し、互いの取り組みの現場から同等に学びあうこと
- 学びあいの**成果を発信し、社会に還元**すること

# よくある応募だが、助成の趣旨に合いづらいもの

## 「A国がB国に教える、支援する」 「A国とB国がC国に学びに行く」

→2つ以上のプロジェクト実施国が相互の現場から対等に学びあう取り組みが対象。援助、指導するといったものは対象外

## 主な活動や成果が調査研究やその発表/ 定例の国際会議の開催

→課題解決に向けて取り組む人々同士の相互の現場訪問による学び合いが対象。調査や会議のみを行うものは対象外

## 研究者や専門家同士の交流

→専門家同士、研究者同士の交流のみは対象外。

多様なセクター、専門性、立場の人々の取り組みの学びあいを通じて多角的な洞察や学びを得たり、課題解決に向けた関係性構築を目指す

**ウェブ掲載のFAQと過年度の質疑の内容もご確認ください！**

## ■ 移住帰国者の交流：東南アジアの送出国における日本移住経験の共有フォーラムの構築（2024）

実施国：カンボジア、ベトナム、日本、インドネシア、ミャンマー、タイ  
参加者：送出国・受入国の移住労働者支援団体、企業、研究者、  
メディア関係者 など

- 国際移住労働の急増に伴う国際的な共通課題
- 送り出し国、受入国 双方の様々な関係者



## ■ 日韓におけるケアラー支援：ダブルケアラー・ヤングケアラー支援とケアが豊かな地域社会—ケアリングデモクラシー—への学び合い (2023)

実施国：日本、韓国

参加者：行政・団体職員、支援団体（NPOなど）、研究者、  
ソーシャルワーカーや相談員などの実践者 ほか

韓国と日本：社会的に女性に期待される役割が類似する社会のケアラー事情



## ■ 災害多発国における多国籍合同訓練を通じた緊急医療支援の相互学び合いプロジェクト（2023）

実施国：日本、台湾、フィリピン

関係者：緊急救援活動団体、医療関係者（医師、看護師等）実践者ほか

災害時に備えた協力体制の構築へ向けて



## ■ 健康で生物多様性に富んだアジアのフードシステム構築に向けた 「ワイルド・ガーデン（自然植生の農園）」の活用— 科学と少数民族をつなぐ越境的・学際的プラットフォーム（2022）

実施国：マレーシア、台湾、カンボジア、フィリピン、ベトナム

関係者：研究者（農業、少数民族研究など）、保健局、

観光サービス業（レストラン等）、少数民族の地域リーダーほか

日本在住の外国人研究者が代表を務めるプロジェクト



## 心豊かな「死」をむかえる看取りの「場」づくりー 日本国西宮市・尼崎市とタイ国コンケン県ウボンラット郡の介護実践の学び合い (2015)

関係者：医師、看護師、介護士、宗教者、ソーシャルワーカー等



多様な価値観や経験を  
学びあい  
洞察を深める

**応募期限：5月30日（土）日本時間23時59分**

**事前相談：5月15日（金）までに申し込み**

**ご相談、ご応募お待ちしております！**



# プログラムの違いについてご説明

## 基礎情報の違い

### 国内助成 プログラム

[テーマ]

新常態における新たな着想に  
基づく自治型社会の推進

### 研究助成 プログラム

[テーマ]

つながりがデザインする  
未来の社会システム

### 国際助成 プログラム

[テーマ]

アジアの共通課題と相互交流  
ー学びあいから共感へー

春募集

プログラム	内容	予算	募集方法
国内助成 <11月助成>	基本テーマを「 <b>新常態における新たな着想に基づく自治型社会の推進</b> 」とし、2つの枠組み（①日本全体、②特定地域）での実践に助成	9,000万円	公募
研究助成 <11月助成>	基本テーマを「 <b>つながりがデザインする未来の社会システム</b> 」とし、〈共同研究助成〉に対して助成	6,000万円	公募
国際助成 <11月助成>	基本テーマを「 <b>アジアの共通課題と相互交流—学びあいから共感へ—</b> 」とし、東・南・東南アジアの各国・地域を対象に助成	8,000万円	公募

秋募集

特定課題 <翌5月助成>	① <b>人口減少と日本社会</b> 「未来の担い手」が実施主体となり、人口減少の緩和と人口減少下における日本社会のあり方への調査研究と提言に助成	① 4,500万円	公募
	② <b>先端技術と共創する新たな人間社会</b> AIなどデジタル技術の急速な進展によって生じる諸課題に対する研究・実践活動に助成	② 4,500万円	公募
	③ <b>外国人材の受け入れと日本社会</b> 5つの課題を設定し、外国人受入れの総合的な仕組み構築への寄与が期待できる調査・研究・実践活動に助成	③ 5,500万円	公募
イニシアティブ プログラム	NPOの基盤強化など <b>非営利セクターの発展に資するプロジェクト</b> などを積極的に支援 その他、 <b>他組織との共同助成</b> や <b>民間財団として支援の意義が大きいプロジェクト</b> 、 <b>将来の新しいプログラムの開発に資するためのプロジェクト</b> を積極的に発掘	4,000万円	非公募

	国内助成プログラム *助成枠組み：1) 日本、2) 地域	研究助成プログラム	国際助成プログラム
助成期間	1) 3年間 / 2) 2年間	2年間	2年間 または 1年間
助成金額 (上限/件)	1) 1,500万円 / 2) 600万円 (3件程度を予定) (8件程度を予定)	800万円 (8件程度を予定)	<2年助成> / <1年助成> 1,000万円 / 500万円 (8件程度を予定)
助成対象費目	人件費や事務局経費を含めて、 プロジェクト実施に必要な経費を助成 ※「1) 日本」の枠組みではデジタル技術 活用のシステム間連経費は上限500万円 ※運営の中心を担う団体の管理費は予算 総額の10%以内	原則として、 プロジェクト実施に必要な直接費 ※管理費は予算総額の10%以内	原則として、 プロジェクト実施に必要な直接費 ※管理費は予算総額の10%以内 ※人件費と謝金の合計額は予算総額の30% を超えないこと
応募要件	① 「プロジェクトチーム」での応募 ② 企画や調査フェーズの実績 ③ 中心団体の設置 ※1) 2) 何れも共通の要件	① 2名以上による共同研究であること ② 代表者は45歳以下で、かつ拠点が 日本であること ③ 所属、経歴は不問	① 代表者は日本在住 ② 対象国（アジア）の2か国以上の 共通課題に取り組む ③ 多様なメンバーによる相互の直接訪問 による学びあいおよび成果発信を行う
特記・注意事項	「1) 日本」については以下の条件有 ・ 個別の事前相談が必要 ・ 予算の一部に金額制約有 ・ 選考委員会でのプレゼン有	・ 明確な社会課題に向け取り組む具体的 な計画があること ・ 研究成果を広く社会に発信する意欲が あること	4つのキーワード： 国際性、越境性、双方向性、先見性

# 各プログラムの公募期間・事前相談情報

	国内助成プログラム *助成枠組み：1) 日本、2) 地域	研究助成プログラム	国際助成プログラム
公募 期間	～ 6/3 (水) 15時00分	～ 6/5 (金) 15時00分	～ 5/30 (土) 23時59分
事前相談 期間	～5/15 (金) ※ それ以降は「企画書」の書式を用いて相談用資料をご作成ください。	～5/22 (金) ※ お申し込みは 5/15 (金) まで	～5/22 (金) ※ お申し込みは 5/15 (金) まで
	※ 期間締切間近は、予約が埋まってしまうため <b>お早めにお申し込み</b> ください ※ 「コンセプトノート」 または 「指定の応募相談シート」 にて対応します (詳しくは各助成プログラムのHPページをご参照ください)		

# プログラムの違いについてご説明

## どのプログラムが適切なの？

### 国内助成 プログラム

[テーマ]

新常態における新たな着想に  
基づく自治型社会の推進

### 研究助成 プログラム

[テーマ]

つながりがデザインする  
未来の社会システム

### 国際助成 プログラム

[テーマ]

アジアの共通課題と相互交流  
ー学びあいから共感へー

# どのプログラムが適切なの？ 各プログラムの違いについて

## 事例

国内？ 研究？ 国際？

### 自治についてのプロジェクトを考えています

国内



(どこで) 日本のA町で、  
(だれが) 実践者+地域住民 などの多様なセクターが、  
(なにを) 地域課題に抽出し、住民の主体性向上のためのシステム構築プロジェクト

成果



地域課題の抽出  
地域住民の主体性向上  
場の社会実装 など

研究



(どこで) 設定した対象地域(国内外)において、  
(だれが) 研究者+実践者が、地域住民を対象に、  
(なにを) 「住民の地域への信頼数値が、自治力にどう変化・影響を与えるのか」  
という調査研究プロジェクト



研究データの成果発表  
論文発信  
調査の社会発信 など

国際



(どこで) 日本とB国とC国で、  
(だれが) 実践者が、B国とC国の実践者と共に、  
(なにを) 自治力が低下している共通課題に対して、互いの成果と工夫などの  
実践やノウハウを学び合う交流プロジェクト



実践知の交換と  
助成後の社会実装、  
学びの社会発信 など

## 事例

国内？ 研究？ 国際？

日本でまだまだ遅れているデジタル化について取り組みたいです

国内

A町における、市民参加と意思決定の再設計する  
デジタル地域自治ラボの実践プロジェクト

成果

地域課題の抽出  
地域住民の主体性向上  
政策提言や社会実装 など

研究

「デジタル化における市民の適応と抵抗のメカニズムに関する  
日本とA国とB国の比較」という調査研究プロジェクト

研究データの成果発表  
論文発信  
調査の社会発信 など

国際

同じようにデジタル化が遅れているB国と共に、  
デジタル化の適切な社会浸透についての学び合う交流プロジェクト

実践知の交換と  
助成後の社会実装、  
政策提言や社会発信 など

# 質疑応答

WEBサイトの「よくあるご質問」も  
ご参照ください



<https://www.toyotafound.or.jp/grant/faq/>

## 国内助成 プログラム

[テーマ]

新常態における新たな着想に  
基づく自治型社会の推進

## 研究助成 プログラム

[テーマ]

つながりがデザインする  
未来の社会システム

## 国際助成 プログラム

[テーマ]

アジアの共通課題と相互交流  
-学びあいから共感へ-

# 各プログラムの公募期間・事前相談情報

	国内助成プログラム *助成枠組み：1) 日本、2) 地域	研究助成プログラム	国際助成プログラム
公募 期間	～ 6/3 (水) 15時00分	～ 6/5 (金) 15時00分	～ 5/30 (土) 23時59分
事前相談 期間	～5/15 (金) ※ それ以降は「企画書」の書式を用いて 相談用資料をご作成ください。	～5/22 (金) ※ お申し込みは 5/15 (金) まで	～5/22 (金) ※ お申し込みは 5/15 (金) まで
	※ 期間締切間近は、予約が埋まってしまうため <b>お早めにお申し込み</b> ください ※ 「コンセプトノート」 または 「指定の応募相談シート」 にて対応します (詳しくは各助成プログラムのHPページをご参照ください)		
プログラム別 オンライン 説明会	4月22日(水) 12時00分～13時00分 5月7日(木) 18時00分～19時00分	4月9日(木) 13時00分～14時00分 4月22日(水) 11時00分～12時00分	4月7日(火) 13時00分～14時00分 4月28日(火) 14時00分～15時00分

詳しくはWEBサイトの  
各プログラムページをご覧ください



国内助成  
プログラム

[テーマ]

新常態における新たな着想に  
基づく自治型社会の推進



研究助成  
プログラム

[テーマ]

つながりがデザインする  
未来の社会システム



国際助成  
プログラム

[テーマ]

アジアの共通課題と相互交流  
-学びあいから共感へ-